

平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

創立 120 年目の歴史を有する本校の公立高校としての役割は、生徒・保護者・地域のニーズに応じた生徒の進路実現を図り、地域・社会に有為な人材を育成することにある。「グローバル・リーダーズ・ハイスクール（GLHS）」と「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」としての責務を理解し、さらに充実した教育活動の展開を図る。 ■ 育てたい生徒像：岸高生の誇りを持った「爽やかで骨太」のグローバルに活躍するリーダー ■ 目標とする学校像：生徒・教職員がともに成長する「学びの時空間」 このような観点から、「教科学習だけでなく、すべての教育活動を通じ、生徒・教職員がともに成長する学校（学びの時空間）」をめざす。
--

2 中期的目標

1 確かな学力の育成 高大接続改革（大学入学者選抜改革等）を踏まえ、魅力ある「充実した授業」をめざし、一層の授業改善に取り組む。 (1) 魅力ある「充実した授業」をめざし、授業改善に取り組み、生徒の持てる力を最大限引き出す ア 生徒による授業評価（年 2 回）を行い、教科別に授業公開週間と研究授業を設定 イ 「アクティブラーニング」型の授業の導入と I C T 機器を活用した教育の推進 ウ 教科ごとの授業目標を「岸高スタイル」で共有と定期的な教員研修で、新たな教育課題への対応 エ 英語の運用能力を向上 S E T（スーパーイングリッシュティチャー）と協働する オ 土曜日を活用した講習・学習指導など、教科学習を補完する活動の充実 カ 「グローバル・リーダーズ・ハイスクール」、スーパーサイエンスハイスクール事業の効果的な運営をすすめる校内組織の充実 キ 「岸高教育コレクション」（「解体新書」（初版本）などの文献、生物剥製・骨格標本、物理実験具、史料等）の活用 ※（生徒向け）学校教育自己診断における学校満足度や授業満足度80％以上をめざし、3 年後に90％以上をめざす。 ※ 3 年後までに、ステージ 2（TOEFL 対象生徒の10％以上が80点以上、20％以上が60～79点）をめざす。 2 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす取組み 殆どの生徒が 4 年制大学への進学を希望する本校にあって、充実した学校生活の結果として「進学」を捉え、進学実績のみを求めるのではなく、グローバルな世界に通じるとともに地域に対する深い愛情をもった高い志をもつ人材を育成する教育を推進する。 (1) G L H S、S S H 事業を活用した 3 年間を見据えたキャリア教育を実施する岸和田高校 「グローバルリーダー育成プログラム」の共有と深化 ア O B・O G による職業講話、大学研究室見学や大学関係者・科学技術者・企業家等による出前講義・講演等による興味関心を高める体験的キャリア教育の推進 イ T A の導入等課題研究のさらなる充実と発表などプレゼンテーション能力の育成と全校生徒への普及 ウ グローバルな視野でキャリア（将来像）を考え英語運用力も鍛える「グローバルリーダー養成プログラム（海外大学版・校内版）」の実施 エ ルーブリック評価等による評価法の確立とポートフォリオ等による活動記録 (2) 国公立大学志望90％という生徒の進路希望の実現をサポートする。国公立大学進学者の合格者数を 3 年後に60％以上、あわせて難関大学（東大・京大・阪大・神大・旧帝大など）の受験者増をめざす ア 低学年（1 年 2 年）での学習習慣、時間管理能力の確立 イ 進路指導部を中心に、進路指導ホームルームの充実を図る ※（生徒向け）学校教育自己診断における進路指導の満足度80％以上を維持し、3 年後に90％以上をめざす。 (3) 「朝読」（読書活動）の奨励 3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取組み 充実した学校生活こそが、卒業後の力の源になることから、学校行事・部活動等の一層の充実を図る。また、異文化交流による豊かな心と国際教養力、幅広い視野、通じる心とコミュニケーション力の育成を図る。 (1) 学習とクラブ活動・学校行事の両立への意識を高める。 ア 学校生活の主体的な取組みの充実 イ クラブ活動の奨励とクラブ活動を核にしたリーダー育成 ウ 社会人としての人権意識・マナーの醸成 ※（生徒向け）学校教育自己診断における学校行事やクラブ活動の満足度90％以上を維持する。 (2) メンタルサポート体制を充実させる ア 教育相談室(教育相談&支援教育)の充実 イ 支援の必要な様々な状況を持つ生徒への合理的配慮 (3) 多様性を感じる体験や異文化理解によるグローバル教育を推進する。 ア 国際交流、海外修学旅行（台湾）等リングフランカとしての英語体験、異文化体験の充実 イ グローバル・イマージョンプログラムの実施 ※（生徒向け）学校教育自己診断における国際（理解）教育の満足度 80％以上を維持し、3 年後に 90％以上をめざす。 4 地域・保護者との連携と社会参加・社会貢献 「岸コレ」など S S H の成果等や学校情報を地域や保護者に積極的に情報発信する。社会参加・社会貢献の意識を醸成し、安全で安心な学習環境の向上をめざし校内環境整備を継続する。 (1) 学校情報を収集し、地域や保護者に情報を発信する。 ア 「岸コレ」など S S H の成果等の発信と普及 イ 学校 Web や校長ブログによる情報の発信 (2) 地域を中心とした社会参加・社会貢献に取り組む ア 地域の幼稚園と年間を通じた計画的なサービ斯拉ーニングの実施 イ 地域への貢献、防災意識の涵養を推進 (3) 安全で安心な学習環境を向上し、校内環境整備を継続する。 ※（保護者向け）学校教育自己診断における情報提供の満足度 90％以上を維持する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成○年○月実施分]	学校協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の育成	(1)魅力ある「充実した授業」をめざし、授業改善に取組み、生徒の持てる力を最大限引き出す ア 生徒による授業評価（年2回）を行い、教科別に授業公開週間と研究授業を設定 イ A L型の授業の導入とI C T機器を活用した教育の推進 ウ 教科ごとの授業目標を「岸高スタイル」で共有と定期的な教員研修で、新たな教育課題への対応	ア、イ、ウ ・「生徒による授業評価」を7月、12月に実施し7月の結果をもとに授業改善シートで改善点を各自明らかにして授業改善に活かす（継続） ・教科別に1週間の公開授業週間を設定し、互いの授業見学する。また、全教科で研究授業を行い、研究協議の時間を持つ。 ・アクティブラーニング型やI C T機器の授業活用した授業の情報を紹介し参観を促す ・授業力向上のため、全授業担当者がA L型もしくは、I C T機器活用の授業に、学期に1回は取組む ・教科ごとの授業取組み計画表「岸高学びのスタイル」を作成し、定期的に教科会議で話合うことを、授業力向上の研修の1つとして活用する。 ・初任者や若手教員を育成するために、校長塾を初任2年目3年目10年目教員の交流研修実施	ア、イ、ウ 生徒による授業評価における授業満足度 80％以上をめざす（H27は79.1％） ・学校教育自己診断における「授業向上のための取組み」の項目の肯定的回答80%以上を維持する（H27は86.5%） ・全教科で研究授業を1回以上行う。 ・学期に1回は取組む割合が50%以上（新規） ・5月上旬までに、授業取組み計画表を作成し、少なくとも10月の中間考査後、教科会議で進捗状況を確認する ・交流研修を2回実施し、10年目の教員が交流研修を企画立案運営を行う	
	エ 英語の運用能力を向上 S E Tと協働し、CAN-DOリストを作成 オ 土曜日を活用した講習・学習指導など、教科学習を補完する活動の充実 カ G L H S、S S H事業の効果的な運営をすすめる校内組織の充実 キ「岸高教育コレクション」（「解体新書」（初版本）などの文献、生物剥製・骨格標本、物理実験具、史料等）の活用	エ ・年次進行で、S E TによるTOEFL仕様の英語授業を開始し英語運用能力を向上を図る ・CAN-DOリストを作成する ・英語能力試験などへの意欲喚起を行い、英語会話能力の向上を図る。（継続） ・英語能力試験受験の奨励（継続） オ ・土曜の午前は、生徒の「学習タイム」とし、講習等を行う（クラブ活動等は午後から） ・「特進ゼミ」を継続し、サポート講習を行う。 カ 校内組織「プロジェクト28」の組織再編を行い、2期目S S Hのプランを迅速かつ円滑に推進する。 キ 「岸高教育コレクション」（岸和田市有形文化財）の授業や課題研究等へ活用する（継続）	エ TOEFL iBT 練習テスト1年の30%が40点以上 ・英語能力試験受験者数80名以上を維持する。（H26は82名） エ 学校教育自己診断において、土曜の学習タイムを有意義に過ごしている、。50%以上をめざす。 カ 「プロジェクト28」事業推進会議の運営状況の把握（週1回の定例の開催と各職会での情報共有） キ S S Hのアンケート質問項目「課題研究を通して科学に対する興味関心が高まった」60%以上をめざす	

府立岸和田高等学校

2 高い志をばぐくみ、進路実現をめざす取り組み	(1) G L H S、S S H事業を活用した3年間を見据えたキャリア教育を実施と岸和田高校「グローバルリーダー育成プログラム」の共有と深化 ア O B・O Gによる職業講話、大学研究室見学や大学関係者・科学技術者・企業家等による出前講義・講演等による興味関心を高める体験的キャリア教育の推進 イ T Aの導入等課題研究のさらなる充実と発表などプレゼンテーション能力の育成と全校生徒への普及 ウ グローバルな視野でキャリア（将来像）を考え英語運用力も鍛える「グローバルリーダー養成プログラム（海外大学版・校内版）」の実施 海外大学や海外姉妹校との交流・研究協力 エ ループリック評価等による評価法の確立とポートフォリオ等による活動記録 (2) 国公立大学志望90%という生徒の進路希望の実現をサポートする。現役での国公立大学進学者の合格者数を3年後に60%以上、あわせて難関大学の受験者増をめざす ア 低学年（1年2年）での学習習慣、時間管理能力の確立 イ 進路指導部を中心に、進路指導ホームルームの充実を図る (3) 朝読の奨励	(1) ・3年間のグローバルリーダー人材育成プログラム（H28年度用）の作成と配布 - ア ・1年1学期に、O B・O Gによる職業講話を実施し、将来について考えさせる。 ・さまざまな分野の調査・研究の課程や分析等に興味関心を持たせる（継続） ・S S H事業と絡めて、大学関係者の出前講義や研究室の見学（継続） ・科学技術者・企業家等による講演 ・「課題研究」「探求」「総合的な学習の時間」等での社会人講師活用（継続） ・J A X A等の研究施設訪問（サイエンスツアー）（継続） - イ ・プレゼンテーション能力の育成（継続） ・「探究」「課題研究」に大学院生のT A（アシスタントティチャー）を導入し、1年S D（セレンディピティ）2年課題研究、3年C S（キャリアスタートゼミ）を再構築し課題研究を充実させる ・1期S S H事業での「探究・課題研究・国際総合」での成果を全校的に普及させるため、「各教科」や「総合的な学習の時間」等で、課題研究的な取り組みの奨励し、全校生徒に多様な発表の機会提供に努める - ウ ・留学生を招聘した「グローバルリーダー養成プログラム」の校内版を実施し、グローバルな視野でキャリア（将来像）を考え英語運用力も鍛える ・「グローバルリーダー養成プログラム」のカリフォルニア大学バークレー校版の実施（継続） ・S S Hの海外調査での海外大学等との研究協力 ・姉妹校（台湾）での英語でのプレゼンの継続と英語での研究発表の奨励 - エ ・評価法についての教員研修を実施 ・S Dファイルの導入 (2) 国公立大学への合格数が上がるよう学校として支援（継続） ア、イ ・高い志を維持させるはたらきかけを進路指導部を中心の学年とともに工夫する ・岸高手帳の導入 ・1年2年での学習習慣の確立 ・生徒、保護者への進学説明会の充実 ・東大・京大・阪大キャンパスツアーの実施 ・土曜日の学習タイムの充実 ・学校休業日の学習スペースの開放 ・長期休業期間の効果的な講習計画 ・各種業者模試の情報提供 ・P T Aによる支援 ・進路ホームルームの充実 ・朝読タイムの意義の再徹底を行い、読解力・集中力の育成を図る。（継続）	(1) ・4月までに改定し配布する。 - ア ・招聘 O B O G の数 5 名以上を維持する - S S H事業アンケートにおける満足度を測定し、満足度 75%以上をめざす - イ - 探究発表会での発表本数を 70 本以上を維持する ・新たなS Dのカリキュラムを4月からスタートさせる。 ウ ・プログラム参加者の満足度 90%以上 15 名以上の参加 ・2 本以上の英語のプレゼンを行う。 エ ・1 学期中に実施する (2) 国公立大学合格者数が（現浪合わせて）180 人以上をめざす （保護者向け）学校教育自己診断結果における進路情報の満足度の 90%以上を維持する ・「自立・自己実現の支援」の設定目標に「朝読」の取り組みを設定する（80%以上）	

府立岸和田高等学校

3 豊かな感性とたくましく生きるための健康と体力をはぐくむ取り組み	(1) 学習とクラブ活動・学校行事の両立への意識を高める ア 学校生活の充実 イ クラブ活動の奨励とクラブ活動を核にしたリーダー育成 ウ 社会人としての人権意識・マナーの醸成	(1) ア ・遠足・文化祭・体育祭・鍛練遠足・合唱コンクール等行事への生徒の主体的な取組みを推進 ・岸校グッズによる自己肯定感の向上 イ ・クラブ活動への入部を奨励 (継続) ・クラブ活動振興のため社会人講師の活用 (継続) ・外部講師を招聘したメンタルトレーニングや理学療法的な講演会をクラブ部員中心に実施し、健康を自己管理する能力を高め、高い志の下、活動において良い結果を出せるよう取り組む ・学習とクラブ活動両立の良い事例の共有やリーダー性を高めるためのリーダー研修をクラブ代表者を対象に実施 ウ・社会人としての社会参加意識や人権意識の涵養と生活マナーの向上 (継続) ・いじめ防止やネチケット等、人権教育の推進のための教職員や生徒への研修の実施 (継続) ・挨拶運動や交通マナー指導をはじめ、定期的な遅刻や服装指導を実施 (継続) ア ・再編整備した教育相談室(教育相談&支援教育)の円滑な運営を行う ・教育相談室への、生徒・保護者・教職員の利用をすすめる ・教育相談室が、教職員の意識・スキル向上のための研修の計画およびその実施する ・外部のカウンセラーを定期的に活用し、精神的ケアの必要な生徒・保護者・教職員に適切な支援を行う (継続) イ ・様々な状況の生徒の教育的ニーズに応じて、適切な支援する ・必要に応じて福祉や医療など外部機関と連携 ・キャリア教育(大学卒業後の就労支援に向けた配慮など)を検討する (3) ア、イ ・異文化交流によるグローバル教育、台湾修学旅行でのリングフランカとしての英語体験、異文化体験の充実 ・G L 係(グローバルリーダー育成に関わる業務を担当)を新設し、G L 養成プログラムや国際交流等の充実 ・海外視察校の受け入れ (継続) ・京都大学理学部の協力で、サイエンスカフェ(S S H イマージョン)の実施 ・海外イマージョン型語学研修の実施(オーストラリア)	(1) ア ・行事アンケートの満足度の把握し、満足度 80%以上維持をめざす イ ・クラブ活動入部率 90%以上を維持する ・講演会参加者数 200 名以上 ・リーダー研修を 1 回以上 ・総遅刻数を 2,000 回以下を維持する。 ア ・教育相談室会議を各学期に 2 回定例会議を持ち、その他随時に対応する。 ・生徒、保護者、教職員向けに相談日より「オアシス」の年間 5 回以上の発行およびその内容の充実 ・年間 1 回以上の研修 ・スクールカウンセラーとの情報交換会の学期 1 回実施 イ．相談室会議において、教育的ニーズのある生徒への支援に知恵を講じる。必要な生徒を把握することに行う。 (3) ア、イ (生徒向け・保護者向け) 学校教育自己診断結果における「国際交流 S S H などの特色ある教育活動」 80% 以上 ・海外からの訪問校を 3 校以上招致する ・語学研修 32 名以上の参加	
	(2) メンタルサポート体制を充実させる ア 教育相談室の(教育相談&支援教育)充実			
	イ 支援の必要な様々な状況を持つ生徒への合理的配慮 (3) 多様性を感じる体験や異文化理解によるグローバル教育を推進する。 ア 国際交流、海外修学旅行(台湾)等リングフランカとしての英語体験、異文化体験の充実 イ「グローバル・イマージョンプログラム」の実施			

4 地域・保護者との連携と環境整備	(1) 情報を収集し、地域や保護者に情報を発信する。 ア 「岸コレ」などSSHの成果等の発信と普及 イ 学校Webページや校長ブログによる情報の発信	(1) 情報発信 ア ・全国SSH研究発表会への参加 ・大阪サイエンスディ、GLHS10校発表会、科学オリンピック、各種コンクール、コンテストや学会などへの参加奨励（継続） ・情報ゼミによる「岸コレ」の順次更新と岸コレトピックスの校長ブログによる発信 ・生徒研究発表会の保護者や地域への公開（継続） イ ・学校Webページのスマホ対応など一新 ・メーリングリストによる情報発信（継続） ・「校長かわら版」(ブログ)による情報発信（継続） ・岸高レターの発行（継続）	(1) ア、イ ・（保護者向）学校教育自己診断結果における情報共有満足度90%以上を維持する ・（保護者向）学校教育自己診断結果における「国際交流SSHなどの特色ある教育活動」80%以上を維持する ・メーリングリストの各週末送信を維持する ・「校長かわら版」(ブログ)の更新を月20回以上の維持 ・岸高レター 2回以上維持	
	(2) 地域を中心とした社会参加・社会貢献に取り組む ア 地域の幼稚園と年間を通した計画的なサービスラーニングの実施 イ 地域への貢献、防災意識の涵養を推進	(2) 社会貢献の実践を学び、社会貢献について考えさせるGLHS講演会の実施 ・政治的教養をはぐくむ教育に取り組む ア 地域の幼稚園との計画的なサービスラーニング ・近隣の幼稚園との1年を通した交流 イ 地域貢献の継続推進 ・岸高桜祭の開催、 ・近隣の幼稚園との防災教育・共同避難訓練 ・近隣の住民との防災教育を通した意見交流 ・公開食育講座	(2) グローバルな社会貢献体験をした大学生との交流を1回以上持つ ア・地域の幼稚園との交流を各学期ごとに1回、年3回以上持つ イ ・岸高桜祭の来校者200人以上を維持する ・近隣幼稚園との防災教育、共同避難訓練を2回以上行う ・地域住民との防災ワークショップの実施を1回以上行う ・近隣小学生、卒業生を招いた食育、クッキング教室の開催を年3回以上行う	
	(3) 安全で安心な学習環境を向上し、校内環境整備を継続する。	(3) ・HR教室等のICT機器使用環境の点検補修 ・展開教室の連結機の解消 ・小会議室の整備と活用(授業等での利用の促進)	・ICT機器の使用環境整備する。	